

アメリカで起きたサブプライム・ローン問題（住宅バブルの崩壊）は、投資銀行リーマン・ブラザーズの倒産（2008年）をきっかけに世界的金融危機へと発展しました。ヨーロッパでは、多くの銀行が危機に陥るとともにその救済に乗り出したアイルランドなどの政府債務は大きく膨らみました。そして、2010年にはギリシャ政府の債務問題が発覚し、アイルランド、スペイン、ポルトガル、イタリアなどの政府債務問題とともにヨーロッパの共通通貨圏を大きく揺さぶります。アメリカに端を発した金融危機はヨーロッパをはじめ全世界に伝播し、それは金融だけでなく経済全体の変調へとつながっていったのです。

「こんな大きな危機を招いたのは経済学が役に立たない証拠だ」とか、「経済学者がしっかりしないからこういうことになったんだ」という声も聞かれます。実際こうした批判は、経済学の研究・教育を職業としている私たち筆者にとって耳が痛い問題です。しかし私たちは、今日の経済危機を、経済学が役に立たない証拠として捉えるのではなく、経済学の必要性を再認識させ、経済学のさらなる発展を促し、経済を研究する私たちを鼓舞するものだとして捉えています。経済状況の良し悪しは人々の生活を大きく左右します。経済学は経済運営の指針を提供し、人々の生活の向上に大きく貢献しうるとても大切な学問なのです。

それと同時に、経済学はとても難しい学問でもあります。「難しい」というのは理解しづらいという意味ではありません。経済学が解明しようとする世界があまりに複雑で不確実なため、種々の経済問題に対してそれぞれベスト・アンサーを見つけるのは困難を極め

るということなのです。経済学が相手にしている経済のプレーヤーたち（消費者や企業など）は結局のところ人です。物理学で扱う分子などと違い、人は外部からの作用に対し予見したとおりに動いてくれないのです。

このように、重要でもあり難しくもある経済学を、私たち筆者は情熱を持って研究・教育に取り組んでいます。難しいからこそ探求しがいもあり、人々の暮らし向きを大きく左右するからこそ真摯な態度で研究を続けていけるのです。また、経済学はとても面白い学問でもあります。最初は取っつきにくいと思っても、突如よくわかるようになる学問でもあります。数学的・論理的に考えていく作業は頭の体操にもなります。私たちは経済学が大好きです。この教科書を通じて、その想いを読者の皆さんと共有できればとても幸せです。

この教科書は、経済学の入門書です。大学に入って初めて本格的に経済学を学ぶ人には、ぜひ手にとってもらいたいと思います。経済学部以外の学生で本格的に経済学を学ぶ予定がない人にも読んでもらい、経済に興味を持ってもらいたいと考えます。また、学校を卒業し社会人として働いている人たちにも、ぜひ手にとってもらいたいと思っています。学生時代に経済学を勉強した人もそうでない人も、この教科書を通して経済を読み解くスキルを身につけ、今日の社会を見つめ将来について考えてもらえれば嬉しいです。

この教科書において私たちは、言葉による直観的説明を重視し経済理論を紹介することを心がけました。しかし同時に、数学的で厳密な議論をおろそかにしないよう気をつけました。その結果、社会人にも役に立つ入門書としてはやや堅苦しい印象を与えるようになったかもしれません。しかし、もしそうだとしたら、それは「次につながる」形で、経済学の基礎を皆さんに伝えようとしているため

です。経済学を本格的に学ぼうとする人にとっての「次」は、さしあたり「より高度な経済学」でしょう。この教科書は、中級以上の経済学へとスムーズに移行できるよう、初級の理論でも厳密な論理展開を大事にしています。経済学部以外の学生や社会人の皆さんにとっての「次」は、自らの専門分野の勉強であり、経済社会へのより深い洞察力を身につけることでしょう。経済社会のあり方を深く洞察するということは、職業人としての自身を取り巻く環境を深く理解するということです。自らが身を置く世界を知り、自らの行動が世界に与える影響を考慮に入れて行動し、基礎に裏づけられた自らの意見を社会に発信して行ってください。「経済学の勉強はこの本だけ」という人にとって、この教科書は「学問的」すぎるように映るかもしれませんが、しかし、「次」につなげるためには、強固な基礎を持たなくてはなりません。経済学の基礎を固めて「次」につなげるには、研究者の立場から経済学の基礎を丁寧に説明したこの教科書は打って付けであると自負しています。皆さんの「次」にこの教科書が少しでも役立てば幸甚です。

皆さんにとって使い勝手のいい教科書でありたいと願い、この教科書の重要な一部である練習問題の解答例を巻末だけでなくウェブサイトにも掲載しています。また、ここで登場するすべての図表もそのウェブサイトからとれるようになっています。どうぞ有斐閣書籍編集第2部のブログ (<http://yuhikaku-nibu.txt-nifty.com/blog/2012/08/post-357e.html>) を訪ねてみてください。

この教科書の執筆は、有斐閣の秋山講二郎氏と渡部一樹氏のお誘いを受けて実現しました。このような貴重な機会を与えてくださった両氏に感謝いたします。とくに渡部氏には、執筆期間中、長きにわたり大変お世話になりました。各章ごとに行われた打ち合わせには、わざわざ国立にある一橋大学までお越しいただき、執筆内容に

多くの示唆を与えていただきました。また，原稿にも丁寧に目を通し，有益なコメントをいくつも与えてくれました。はしがきの最後になりましたが，渡部氏に心から感謝の念を表します。

2012年10月，国立市一橋大学キャンパスにて

古沢 泰治
塩路 悦朗

著者紹介

古 沢 泰 治 (ふるさわ たいじ) [第 I 部担当]

1963 年 広島県に生まれる

1987 年 一橋大学経済学部卒業

1994 年 ウィスコンシン大学マディソン校経済学部博士課程修了 (Ph. D.)

現 在 一橋大学大学院経済学研究科教授

専 攻 国際貿易理論, 応用ゲーム理論

著 作 “Threats or Promises? A Built-in Mechanism of Gradual Reciprocal Trade Liberalization,” (with Takashi Kamihigashi), *Japanese Economic Review*, 63(2), 2012

“Contributing or Free-Riding? Voluntary Participation in a Public Good Economy,” (with Hideo Konishi), *Theoretical Economics*, 6(2), 2011

“Gradual Cooperation in the Existence of Outside Options,” (with Toshikazu Kawakami), *Journal of Economic Behavior and Organization*, 68(2), 2008

“Free Trade Networks,” (with Hideo Konishi), *Journal of International Economics*, 72(2), 2007 など。

塩 路 悦 朗 (しおじ えつろう) [第 II 部担当]

1965 年 東京都に生まれる

1987 年 東京大学経済学部卒業

1995 年 イェール大学経済学部博士課程修了 (Ph. D.)

現 在 一橋大学大学院経済学研究科教授

専 攻 マクロ経済学

著 作 “The Bubble Burst and Stagnation of Japan,” *The Routledge Handbook of Major Events in Economic History*, forthcoming

「資本蓄積・資本破壊と公的投資の生産性について」『現代経済学の潮流 2012』東洋経済新報社, 2012 年, 所収

「外的ショックと日本の景気変動:自動車産業における“Great Trade Collapse”の実証分析」(内野泰助との共著), 日本銀行ワーキングペーパー, No. 11-J-1 など。

序章 経済のしくみと経済学 1

- 1 経済学とは** 1
 経済学とは (1) 稀少性と効率的配分 (2) 機会費用 (3)
- 2 経済のしくみ** 4
 経済のプレイヤー (4) 生産要素 (5) 経済活動の流れと市場 (6)
- 3 経済分析** 8
 モデル分析 (8) ミクロ経済学とマクロ経済学 (10)
 本書の構成 (12)

第 I 部 ミクロ経済学

第 1 章 需要と供給 16

- 1 需要曲線** 16
 需要曲線と需要の法則 (16) 需要曲線と財の評価額 (17) 総需要曲線 (19) より一般的な総需要曲線 (22) 需要の価格弾力性 (23) 弾力性の大小 (24) 需要曲線のシフト (27) 需要曲線上の動きと需要曲線のシフト (29) 代替財と補完財 (31) 正常財と劣等財 (31) 需要曲線をシフトさせるその他の要素 (32)

2 供給曲線	33
供給曲線と供給の法則 (33)	総費用と限界費用 (33)
どうして限界費用は逡増するのか? (35)	供給曲線と 限界費用 (36)
総供給曲線 (37)	供給の価格弾力性 (37)
供給曲線のシフト (38)	

第2章 市場均衡

41

1 市場均衡	41
完全競争と市場均衡 (41)	均衡の安定性 (43)
プライス・シーリング (天井価格) (44)	プライス・フロアー (46)
2 比較静学	47
補完財価格下落の影響 (47)	技術進歩の影響 (48)

第3章 市場の効率性と政府介入

53

1 余 剰	53
余剰とは (53)	消費者余剰：リンゴ市場の例 (54)
消費者余剰 (56)	生産者余剰：表 1-3 の例 (57)
生産者余剰 (58)	生産者余剰は誰の手に? (59)
	政府 余剰 (60)
2 市場均衡と総余剰	61
市場均衡における総余剰 (61)	見えざる手 (62)
3 市場への政府介入	64
●消費税の例	
消費者価格と生産者価格 (64)	消費税の効果 (65)
消費税の実質的負担者 (68)	消費税と生産税 (69)

- 1 外部経済** 74
 外部性：市場の失敗の例（74） 生産面と消費面での外部
 経済と不経済（75） 外部経済と政府介入（77）
- 2 負の消費外部性** 78
 負の消費外部性と社会的需要曲線（78） 負の消費外部
 性と最適生産・消費水準（80） 負の消費外部性と市場均
 衡（82） 負の消費外部性と消費税（84）
- 3 正の生産外部性** 86
 正の生産外部性と社会的供給曲線（86） 正の生産外部
 性と最適生産・消費水準（87） 正の生産外部性と市場均
 衡（89） 正の生産外部性と生産補助金（90）
- 4 外部性の内部化による社会厚生改善** 92
 外部性の内部化（92） いくつかの内部化方策（93）

- 1 生産費用と生産量** 98
 生産費用（98） 平均と限界（100） 企業の生産量決定
 （102）
- 2 完全競争** 105
 完全競争市場での企業行動（105） 企業の短期供給曲線
 （106） 価格が損益分岐価格より高いケース（107）
 価格が生産中止価格と損益分岐価格との間にあるケース
 （109） 価格が生産中止価格より低いケース（111）
 短期総供給曲線（111） 企業の長期供給曲線（112）
 長期総供給曲線（114） 右上がりの長期総供給曲線

(116)

- 3 独占** 117
独占企業が直面する需要と限界収入 (117) 独占企業の行動 (120)

第6章

消費者行動と財の需要

124

- 1 消費者の嗜好** 124
消費者行動の定式化 (124) 無差別な消費点 (125)
無差別曲線群 (126) 無差別曲線の性質 (128) 限界代替率逓減の法則 (129)
- 2 予算制約と消費選択** 133
予算制約 (133) 予算線 (134) 消費点 (135)
- 3 所得・価格の変化と財需要** 137
所得変化に対する反応 (137) 価格変化に対する反応 (139) スルツキー分解 (139) 需要曲線 (142) 代替財と補完財 (144)

第7章

競争均衡と効率的資源配分

148

- 1 財の配分とパレート効率性** 149
一般均衡分析 (149) パレート効率性 (パレート最適性) (150) 純粋交換経済 (152) エッジワース・ボックス (153) エッジワース・ボックスの分解 (154) 契約曲線 (156)
- 2 競争均衡と経済厚生** 157
競争均衡 (157) 厚生経済学の第1基本定理 (160) 価格の調整機能と競争均衡の安定性 (162) 厚生経済学

第8章

ゲーム理論

170

1 戦略形 (標準形) ゲーム 171

戦略形 (標準形) ゲームとは (171) 支配戦略均衡 (173)

支配戦略均衡の問題点 (174) ナッシュ均衡 (175)

ナッシュ均衡の導出 (177) 囚人のジレンマ (178)

2 展開形ゲーム 180

展開形ゲームとは (180) 展開形ゲームのナッシュ均衡

(183) 空脅し (185) 部分ゲーム完全均衡 (185)

ゲームを後ろから解く (187) ルールか裁量か? (188)

第II部 マクロ経済学

第9章

GDP とは

200

1 総生産とは 200

総生産という概念 (200) GDP は総生産を測る統計

(201) 財が1種類の経済を想定してみる (201) 新

たに生産されたものしかカウントしない (202) 市場で

取引されるものが対象 (202)

2 複数種類の財・サービスがある場合 203

現実にはいろいろな財・サービスがある (203) バナナ

と携帯電話をどう足し合わせるのか (204) 総生産を定

義し直す (204) 名目総生産 (205) 名目総生産の問題

点 (206) 実質総生産 (207)

3	中間生産物の取り扱い ……………	209
	生産工程 (209) 付加価値 (209) 総生産は付加価値 の合計 (210)	
4	三面等価の原則 ……………	210
	三面とは (210) 1つの取引しかなかった経済の例 (211) 総生産・総所得・総支出は常に一致する (212) 恒等式とは (212) 売れ残りの取り扱い (213)	
5	どこまでを GDP 統計の範囲に含めるか? ……………	213
	家事・育児などの取り扱い (213) 持ち家の帰属家賃に ついて (214)	
6	何が総生産に含まれないか? ……………	215
	●総生産はあくまで生産量の指標	
7	日本の GDP 統計 ……………	216
	統計を見る際の注意点 (216) 日本の実質 GDP の推移 (217)	

第 10 章

GDP に関連した概念

220

1	総支出の内訳 ……………	220
	三面等価の原則再訪 (220) 経済の 4 部門と総支出の 4 項目 (221) 消費 (C) (221) 投資 (I) (222) 投 資という言葉は間違いやすいので注意が必要 (223) 在 庫投資が支出とみなされることの意味 (224) 政府購入 (G) (225) 政府による歳出であっても政府購入に含ま れないものは多い (226) 純輸出 (NX) (226) なぜ 輸入をマイナスにするのか? (227)	
2	日本の GDP の内訳 ……………	228
	●総支出の各項目構成比	
3	資本ストックと貯蓄 ……………	230

資本ストック (K) (230)	フローとストック (231)
総貯蓄 (S) (231)	貯蓄という言葉にも注意 (232)
4 物価水準の尺度	233
物価水準 (P) とは (233)	GDP デフレーター (234)
物価水準に関するその他の統計 (235)	インフレ率とは (235)
	日本の物価水準の推移 (236)
5 労働関係の尺度	237
失業率 (237)	日本の失業率の推移 (238)
	総労働時間 (238)

第 11 章 長期モデル I

241

総生産の決定

1 マクロ経済学における「長期」と「短期」について	241
2 財市場	245
3 総供給	246
4 総生産の決定	249
● 衝撃的な結論	
5 総需要	250
消費需要 (251)	投資需要 (253)
政府購入需要と租税 (255)	純輸出需要 (256)
	総需要 (256)
6 財市場の均衡	257
財市場の均衡を別の角度から眺める (257)	投資資金市場の均衡条件 (259)
	何が調整するのか? (260)
	投資資金市場の均衡: 図解 (260)
7 財市場と総需要ショック, 総供給ショック	262
拡張的財政政策 (1): 政府購入の増加 (262)	拡張的財政政策 (2): 減税 (264)
	企業の「アニマルスピリット」の

増加 (265) 海外からの需要の増加 (266) 総供給シ
ョック (266)

8 労働市場の役割について 270

第 12 章 長期モデル 2

273

物価水準

1 物価水準と貨幣について 273

物価水準とインフレ率の定義, 復習 (273) 貨幣とは何
か? (274) マネーストック統計 (275) 実質貨幣ス
トックとは (277)

2 貨幣市場と貨幣需要 278

貨幣にも市場がある (279) 貨幣の供給 (279) 貨幣
の需要とは (280) 何が貨幣の需要を決めるのか?
(281)

3 利子率の話 283

実は利子率には 2 種類ある (283) 名目利子率と実質利
子率の関係 (284) なぜこうなるのか? (285) フィ
ッシャー方程式 (287) 投資関数再論 (287)

4 貨幣市場の均衡 288

貨幣需要関数再論 (288) 貨幣市場の均衡条件 (290)

5 政策効果 290

長期モデルの総まとめ (290) 長期モデルでは変数は順
番に決まる (291) 金融政策の効果 (292) 貨幣の中
立性 (293) 財市場における総需要と物価水準 (294)
財市場における総供給と物価水準 (295) 古典派の 2 分
法 (297)

- 1 名目価格の硬直性 300
短期モデルとは (300) 名目価格の硬直性 (301)
- 2 短期における財市場と貨幣市場 303
短期モデルにおける貨幣市場 (303) 短期モデルにおける企業の生産活動 (304) 短期モデルにおける資本ストックと労働 (304) 財市場における「短期均衡」(306) 短期モデル, 数式による表現 (306)
- 3 短期における総生産の決定 307
● 45度線分析
- 4 短期における財政政策と民間需要ショック 308
拡張的財政政策と45度線分析 (308) 民間需要と45度線分析 (311) 総供給と45度線分析 (311)
- 5 短期における貨幣市場 312
貨幣市場と利子率 (312) 短期における金融政策ルール: ターゲット利子率 (314) ターゲット利子率の変更 (316)
- 6 短期における政策効果の分析 317
財市場と貨幣市場の分析の統合 (317) 財市場におけるショックの影響: ターゲット利子率一定の場合 (319) ターゲット利子率変更の影響 (319) 貨幣の非中立性 (320) ターゲット利子率が可変的な場合 (320)

- 1 民間消費と家計の将来予想 325
これまで見てきたマクロ経済モデルの問題点 (325)

2 期間生きる家計 (326) 数式例 (327) 数式例からわかること (329) 2つの限界消費性向 (329) 消費関数との対応関係 (331) マクロ経済学的意味 (331) 財政政策と将来予想(1): 政府の予算制約式 (333) 財政政策と将来予想(2): リカードの等価定理 (334) 消費平準化を阻むもの (336) 借り入れ制約が生じる理由(1) (336) 借り入れ制約が生じる理由(2) (337) 借り入れ制約とマクロ経済学 (337)

- 2 民間投資と企業の将来予想** 338
- 3 企業による価格設定** 339
独占的競争 (339) 図による解説 (341) 需要が増加したときの企業行動: 価格を自由につけかえられる場合 (342) 価格が固定されているもとでの企業行動 (343)
- 4 価格設定と企業の将来予想** 345
名目価格変化の要因を探る (345) 企業が順番に価格を改定するモデル (345) 限界費用の決定要因 (346) 総需要の増加と生産, 物価 (347) GDP ギャップとは (349) フィリップス曲線 (349) インフレの要因 (351) 将来のインフレ予想と現在のインフレ率 (351)

第15章 経済成長

356

- 1 データに見る経済成長** 356
なぜ経済成長を学ぶのか? (356) 1人あたり所得の成長 (357) 長期的成長率の格差の帰結 (358)
- 2 生産関数について** 359
生産関数と生産要素, 技術水準 (359) 資本ストックと生産 (360) 資本ストックと生産, 例による解説 (361) 資本の限界生産性逓減 (362) 労働と生産 (362) 技

	術水準と生産 (363)	生産関数の例 (364)	
3	資本蓄積と経済成長	ソロー・スワン・モデル (364)	資本蓄積の過程 (365)
		投資の決定 (366)	経済成長の基本方程式 (366)
		図による分析 (367)	定常状態 (368)
		資本蓄積による経済成長 (369)	定常状態の決定要因 (370)
		資本蓄積だけで無限に成長し続けることはできない (370)	人的資本 (372)
4	人口成長と経済成長		373
		●ソロー・スワン・モデルと人口成長	
5	技術進歩と経済成長		374
		●ソロー・スワン・モデルと技術進歩	
6	技術進歩と研究開発投資		375
		先進国における技術進歩 (375)	知識がもたらす正の外部性 (376)
		外部性と市場の失敗 (377)	
7	技術移転		377
		途上国における技術移転 (377)	技術移転の誘因 (378)

第 16 章	日本経済とマクロ経済学	383
---------------	--------------------	-----

1	資産価格バブルの生成	資産価格バブル (383)	1980 年代後半の日本のバブル (384)	383
		バブルの背景 (385)	バブルとマクロ経済 (387)	
2	失われた 10 年 (1)	●何が起こったのか?		390
		バブルの崩壊 (390)	長い低迷の始まり (390)	失われた 10 年の謎 (391)

3	失われた 10 年 (2)	391
	●需要不足を強調する学説	
	不良債権問題と投資需要 (391) 金融政策に問題があったとする説 (393)	
4	失われた 10 年 (3)	394
	●供給制約を強調する学説	
	技術進歩率の低下 (394) 不良債権問題と生産性 (395) デフレを説明できるのか? (396)	
5	失われた 10 年 (4)	397
	●マクロ経済政策	
	名目利子率のゼロ下限と金融政策 (397) 財政赤字と財政政策の効果 (399)	
6	2002~08 年の日本経済	401
	●生産性上昇か外需拡大か?	
7	2008~09 年の世界金融危機	402
	●外需の急激な減少	
8	東日本大震災と日本経済	403
	供給ショックとしての大震災 (403) 大震災による需要の萎縮 (404)	
9	日本経済の将来と生産性	404
	練習問題解答例	409
	索引	450

本文イラスト：与儀勝美

Column 一覧

- ① ガソリン需要 (26)
 - ② 豊作貧乏 (50)
 - ③ たばこ税 (71)
 - ④ 農業が持つ外部性と農業保護 (90)
 - ⑤ 電力産業の自然独占 (122)
 - ⑥ 消費者の嗜好に推移律は成り立つのか? (132)
 - ⑦ レモン市場 (164)
 - ⑧ プレーヤーは合理的か? (193)
 - ⑨ 実質 GDP の新しい算出方法: 連鎖計算について (218)
 - ⑩ 日本の公的投資 (229)
 - ⑪ GDP, 資本ストック, 労働の国際比較 (268)
 - ⑫ ハイパーインフレーション (296)
 - ⑬ リーマン・ショックの日本への波及 (321)
 - ⑭ 輸入原材料価格と日本のインフレ (353)
 - ⑮ 「人口1人あたり」と「労働者1人あたり」(379)
 - ⑯ 中国経済と日本経済 (406)
-

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

● あ 行

アニマルスピリット 265
 一般均衡分析 149
 移転支出 226
 インフレ（インフレーション） 10,
 236, 296, 351, 353
 —・ターゲット 399
 —率 235, 274, 349, 350
 失われた10年 390
 エッジワース・ボックス 153
 追い貸し 396
 オイルショック 354
 オークン, A. 350
 オークンの法則 350

● か 行

外部経済（外部効果） 75, 82
 外部性 75, 376
 —の内部化 92
 消費— 77, 79, 82
 生産— 76, 87
 外部不経済 75
 価格 16
 —の伸縮性 242
 消費者— 64
 生産者— 64
 価格カルテル 179
 価格支配力 340
 価格受容者（プライス・テイカー）
 42, 152
 価格弾力性 23, 24, 37, 50, 69, 71
 価格メカニズム（価格機構） 7, 41
 下級財（劣等財） 32, 138
 家計 4
 貸し渋り 392, 396
 可処分所得 251, 329, 335

家事労働 214
 カップルの争い（男女の争い） 174
 株 価 384
 貨 幣 274
 —の実質価値 278
 —の中立性 293
 —の非中立性 320
 貨幣供給 279, 317, 398
 —線 313
 貨幣市場 279, 303, 313
 —の均衡条件式 290
 貨幣需要 280, 288
 —ショック 299
 —線 313
 貨幣需要関数 288, 290
 貨幣所得 141
 貨幣ストック 275
 実質— 277, 313, 320
 可変費用 98
 神の見えざる手 53, 62
 空脅し 185
 借り入れ制約 336
 完全競争 42, 105, 114, 339
 機会費用 3, 283, 288
 企業物価指数 235, 354
 技術移転 378
 技術革新 405
 技術進歩 48, 374
 —率 394, 402
 技術水準 363, 370, 374
 稀少性 2
 帰属家賃 214
 基礎消費 252
 ギッフェン財 141
 規模の経済 122
 逆需要関数 117
 供 給 7

- の価格弾力性 37, 69
 - の法則 33
 - 供給関数 9
 - 供給曲線 12, 33, 36
 - のシフト 38
 - 社会的— 87
 - 短期— 106
 - 長期— 112
 - 供給制約 396
 - 競争均衡 152, 157, 161
 - 価格 159
 - 狂乱物価 354
 - 均衡 9, 303
 - 価格 43
 - 結果 191
 - 戦略 191
 - の安定性 43, 162
 - 銀行貸し出し 389
 - 均衡予算乗数 323
 - 金融緩和 317, 319, 398
 - 金融危機 238, 321, 392
 - 金融規制 387
 - 金融政策 13, 279, 292, 315, 385, 393, 397
 - 拡張的— 319
 - 金融引き締め 317
 - 空洞化 406
 - クラウドディング・アウト 322
 - 景気循環 311
 - 経済主体 4
 - 経済成長 13, 356
 - 契約曲線 157
 - ケインズ, J.M. 265
 - ゲームの樹 181
 - ゲーム理論 12, 170
 - 限界外部性 79, 80
 - 限界収入 104, 118
 - 限界収入曲線 119, 342
 - 限界消費性向 251, 308, 329, 332
 - 限界生産性 362
 - 限界代替率 129
 - 限界費用 33, 98, 346
 - 社会的— 81, 87
 - 限界費用曲線 35, 101, 342
 - 長期— 112
 - 限界輸入性向 324
 - 研究開発投資 (R&D) 375
 - 鉱工業生産指数 402
 - 厚生経済学の第1基本定理 161, 167
 - 厚生経済学の第2基本定理 166
 - 公的投資 226, 229
 - の生産力効果 401
 - 行動経済学 195
 - 恒等式 212
 - 公平性 167
 - 効用 4, 125
 - 効用関数 146
 - コブ・ダグラス型— 146
 - レオンチェフ型— 146
 - 効率性 2, 167
 - 国債 333
 - 国際貿易 379
 - 国内総生産 (GDP) 10, 201, 268, 321
 - コースの定理 95
 - 護送船団方式 386
 - 固定基準年方式 218
 - 固定投資 222
 - 固定費用 98, 102
 - 古典派の2分法 297
 - コールレート 385, 393, 397
 - 混合戦略 176
- さ 行
- 財 1, 5
 - 債券 278
 - 最後通牒ゲーム 193
 - 在庫投資 222, 224
 - 意図した— 223

- 意図せざる—— 223
- 財市場 245, 304, 306
 - の均衡条件 257
- 最終生産物 209
- 財政赤字 399
- 財政収支 399
- 財政政策 13, 255, 309, 333, 399
 - 拡張的—— 262, 308, 322
- 最低賃金制度 46
- 最適反応 174
- 裁量 189
- サービス 1, 5, 203
- サブプライム・ローン問題 164
- 参入阻止ゲーム 182
- 参入・退出 106
- 三面等価の原則 212, 220
- 資源 1
- 資源配分機能 395
- 資産価格バブル 383, 390
- 市場 6
- 市場価値 205
- 市場均衡 61, 82
- 市場の失敗 12, 74, 82, 121, 377
- 辞書式順序の嗜好 168
- 自然失業率 270
- 自然独占 122
- 失業 10, 46, 237
 - 摩擦的—— 270
- 失業率 237, 238, 270
- 実験経済学 195
- 実質効果 320
- 実質所得 298
- 実質変数 297
- 実質利子率 283, 303, 313, 394, 398
 - 均衡—— 322
- 支配戦略 173
 - 均衡 174
- 資本 6
 - の限界生産性 362
 - の限界生産性逓減 362, 369
- 資本減耗 365
 - 率 365, 370
- 資本財 230
- 資本市場 7
- 資本ストック 230, 246, 269, 305, 365, 372
 - 1人あたり—— 373
- 資本蓄積 364, 371
- 社会厚生 5, 54, 81
- 社会的限界便益 79
- 社会的損失 63, 121
- 社会的便益 79
- 社会的利益 62
- 従価税 64
- 就業者 237
- 囚人のジレンマ 178
- 住宅投資 222
- 従量税 64
- 需要 7
 - の価格弾力性 23, 50, 69, 71
 - の法則 17, 139
- 民間—— 311
- 需要関数 9, 25, 27, 117
- 需要曲線 12, 16, 119, 143
 - のシフト 27, 31
- ガソリンの—— 26
- 社会的—— 80
- 総—— 20, 22
- 需要不足 391, 394
- 純粹交換経済 152
- 純粹戦略 176
- 純輸出 221, 226
 - 需要 256, 266, 322
- 上級財（正常財） 32, 137
- 乗数（効果） 311
 - 均衡予算—— 323
 - 政府購入—— 311, 401
- 消費 221, 311
 - 需要 251
- 消費可能性集合 134

- 消費関数 251, 328, 331, 388
 消費者 4
 消費者物価指数 235
 消費者余剰 54, 56
 消費税 64, 69, 84
 消費点 136
 消費配分点 154
 消費平準化動機 326, 336, 400
 情報の非対称性 165
 将来予想 332, 338, 345, 397
 初期保有配分点 154
 所得効果 140
 人口成長 373
 人的資本 372
 推移律 127, 132
 ストック 231
 スミス, アダム 53
 スルツキー分解 140
 スワン, T. 364
 生産関数 360
 コブ・ダグラス型—— 364
 生産技術 246
 生産者余剰 54, 57
 生産性 247, 269, 396
 生産税 69, 84
 生産中止価格 106, 111
 生産調整 305
 生産補助金 91
 生産要素 1, 6, 246, 360
 正常財 (上級財) 32, 137
 制度の質 379
 製品差別化 340
 政府 4, 5, 277
 政府規制 188
 政府購入 221, 225, 262, 308, 333
 — 需要 255
 — 乗数 311, 401
 政府消費 226
 政府余剰 54, 60
 設備投資 222, 311
 ゼロ金利政策 393, 397
 全要素生産性 (TFP) 247, 269, 360, 407
 戦略 171
 戦略形ゲーム (標準形ゲーム) 172
 総供給 245, 248
 — ショック 266, 354
 総供給曲線 37
 短期—— 111
 長期—— 112, 114, 116
 総支出 211
 総需要 245, 250, 256, 306, 348
 — ショック 262
 総需要曲線 20, 22
 総所得 211
 増税 335
 総生産 200, 205, 210
 — 関数 246
 均衡—— 246, 249
 実質—— 207
 名目—— 205
 短期均衡—— 318
 相対価格 134, 163, 234, 298
 総貯蓄 231, 244, 258, 267, 366
 総費用 98
 総余剰 54, 61, 81
 租税 333
 ソロー, R. 364
 ソロー・スワン・モデル 364, 373
 損益分岐価格 106, 109
- た 行
- 代替効果 140
 代替財 31
 完全—— 145
 たばこ税 71
 短期 (ミクロ経済学の) 106
 短期 (マクロ経済学の) 242
 短期均衡 306, 308, 318, 388
 短期モデル 242, 300, 306, 320, 332,

335

談合 180
男女の争い(カップルの争い) 174
担保価値 386
地価 384
地球温暖化 93
中間生産物 209
超過供給 44
超過需要 44
長期(ミクロ経済学の) 106
長期(マクロ経済学の) 242
長期均衡 242
——条件 246
長期モデル 241, 290, 320
貯蓄率 366, 370
賃金率 38
定常状態 369
デフレ(デフレーション) 236, 393,
396
展開形ゲーム 180
天井価格(プライス・シーリング)
45
投資 221, 338, 366
——需要 254, 265, 287, 319
——のコスト 253
投資関数 254, 287, 290, 389
投資資金市場 258
——の均衡条件 259
東証株価指数 384
独占 117, 375
独占企業 120, 339
独占的競争 340
特許制度 376

● な 行

ナッシュ均衡 175, 177, 183
2期間モデル 328
日本銀行 393
農業保護 90

● は 行

排出権取引 93
ハイパーインフレーション 296
バブル 216, 384, 387
——の崩壊 390
資産価格—— 383, 390
林文夫 394
パレート効率性(パレート最適性)
13, 149
パレート効率的分配 151, 156, 161,
179
比較静学 9, 47
東日本大震災 301, 403
非生産的活動 379
評価額 17
標準形ゲーム(戦略形ゲーム) 172
非労働力 237
ファンダメンタルズ 384
フィッシャー, I. 287
フィッシャー方程式 287, 393, 398
フィリップス, A. W. 350
フィリップス曲線 349, 396, 398
GDPギャップ版—— 350
付加価値 209
物価指数 235
物価水準 13, 233, 268, 273, 345
物的資本 6, 372
部分均衡分析 149
部分ゲーム 185
——完全均衡 185
プライス・シーリング(天井価格)
45
プライス・テイカー(価格受容者)
42, 152
プライス・フロアー 46
不良債権問題 391, 395
プレスコット, E. 394
プレーヤー 171
行—— 172

列—— 172
フロー 231
平均可変費用 98
平均可変費用曲線 101
平均費用 98
平均費用曲線 101
長期—— 112
豊作貧乏 50
補完財 31
完全—— 145

● ま 行

マクロ経済学 10
マクロ経済政策 397
摩擦的失業 270
マディソン, A. 357
マネーストック統計 275
ミクロ経済学 10
ムカデ・ゲーム 433
無差別 125, 132
無差別曲線 125, 128
——群 126
名目 205
名目価格の硬直性 301, 343
名目価格の粘着性 302, 346
名目所得 298
名目変数 297
名目利子率 283
——のゼロ下限 397
モデル分析 9

● や 行

輸出 221, 226, 321
——額 402
——需要 332
輸入 221, 226
予算制約 125, 133
政府の—— 334
予算線 134
予想インフレ率 287, 394, 398

45度線分析 308, 388

● ら 行

利上げ 316
リカードの等価定理 335
利下げ 316, 319, 393
利潤 4, 42, 102, 108
——最大化 4, 104
利潤関数 103
利子率 253, 283, 397
均衡—— 261
実質—— 283, 303, 313, 394, 398
名目—— 283
ターゲット—— 314, 320

利得 171
利得行列 172
リーマン・ショック 164, 238, 321, 402

量的緩和政策 398
ルール 189
劣等財 (下級財) 32, 138
レモン市場 164, 337
連鎖方式 218
レント 59
労働 4
——の限界生産性 362
——の限界生産性逓減 363
労働時間 305
総—— 239
労働市場 7, 270
労働者 246, 269, 305
労働力 237, 379
——人口 380

● わ 行

ワルラスの競売人 7
ワルラス法則 163

● アルファベット

GDP (国内総生産) 10, 201, 268,

321			
— 成長率	387	GDP ギャップ	349
— 統計	213, 216	GDP デフレーター	234, 236
実質 —	216, 218, 228, 404	R&D (研究開発投資)	375
名目 —	216	TFP (全要素生産性)	247, 269, 360,
1人あたり —	356		407

● 著者紹介

古沢 泰治（ふるさわ たいじ）
一橋大学大学院経済学研究科教授

塩路 悦朗（しおじ えつろう）
一橋大学大学院経済学研究科教授

ARMA



有斐閣アルマ

ベーシック^{けいざいがく}経済学
——つぎ^{つぎ}次につながる^{きそがた}基礎固め

*Basic Economics:
Building Foundation for the Next Stage*

2012年12月25日 初版第1刷発行
2017年1月30日 初版第4刷発行

著者	古 沢 泰 治 塩 路 悦 朗
発行者	江 草 貞 治
発行所	有 斐 閣

郵便番号 101-0051
東京都千代田区神田神保町 2-17
電話 (03)3264-1315〔編集〕
(03)3265-6811〔営業〕
<http://www.yuhikaku.co.jp/>

印刷・株式会社精興社／製本・牧製本印刷株式会社
© 2012, Taiji Furusawa, Etsuro Shioji. Printed in Japan
落丁・乱丁本はお取替えいたします。

★定価はカバーに表示してあります。

ISBN 978-4-641-12485-1

JCOPY 本書の無断複写（コピー）は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail:info@copy.or.jp）の許諾を得てください。